

### 3 米国経済復興政策と日米貿易問題

293 昭和9年2月9日 在米国武富臨時代代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

#### 米国経済復興政策の進展と米国議会の動向に

ついて

ワシントン 2月9日後発  
本省 2月10日後着

第一〇二號

<sup>(1)</sup>當國經濟復興政策ノ進展振ニ關シテハ累次電報ノ通ナルカ  
最近ニ於ケル右ニ關スル米國議會ノ情勢ニ付一般的觀察ヲ  
試ミレハ次ノ如シ  
一、客年七月產業界ハ一時顯著ナル恢復振ヲ見セタルモ右ハ  
主トシテ投機的原因ニ基キタル關係上直ニ反動生シ加フル  
ニ七月以後N.R.A.、A.A.A等ノ所謂「リホーム」政策ノ進  
行ニ伴ヒ各種產業ハ新事態ニ適應スル必要上萬事手控ノ態  
度ヲトリタル爲景氣恢復ハ八月以後寧ロ退歩ノ傾向ヲ辿リ  
來レルヲ以テ特ニ實業家並ニ金融業者ノ間ニハ政府カ「リ  
ホーム」政策ニ力瘤ヲ入レ事業界ノ原動力トモ云ヒ得ヘキ

既ニ大統領ノ要求ニ依リ(1)一年ニシテ增收四億六千七百萬  
弗ト見積ラル酒造税法(2)R、F、C、ノ貸出能力ヲ<sup>(編注)</sup>二年  
間延長スル法律ハ農業救濟法第二部ニ基ク證券二十億弗ノ  
元本利子ヲ政府ニテ保證スル趣旨ノ聯邦農園<sup>(3)</sup>當會社設立  
法(4)一九三四年金準備法等ノ重要法律ヲ制定シタルカ右ノ  
ノ意ノ儘ニ動キ居ル形ニテ

外政府ノ希望ニ依リ提出セラレ下院ヲ既ニ通過シ殆ト問題  
無ク不日上院ヲ通過スヘシト見ラレ居ルモノニ失業救濟費  
九億五千萬弗家畜金融援助費二億弗等ノ支出法案ノ外内務  
大藏遞信海軍各省及獨立官廳等ノ一九三五年度歲出法案等  
アリ

二、議會ハ前述ノ如ク大統領ノ希望スル案ヲ逐次取上ケ而モ  
所謂~~ssrule~~ニ依リ討議ヲ短時間ニ打切り之レカ通過ヲ急  
キ居ル處議會カスクノ如ク大統領ニ對シ從順ナルハ(1)政府  
與黨カ大多數ヲ占メ居ルニ基クコト明カナルモ(2)「ルーズ  
ベルト」ノ支持者ハ單ニ民主黨ノミニ留マラス共和黨中ニ  
モ相當アリハ而モ議員中上院ノ三分ノ一下院ノ全部ハ今秋  
改選セラルル運命ニアルヲ以テ一般選舉民ノ氣分ニ出來得  
ル限り逆ハサラント努ムルハ當國議會ノ常習ナル處識者ノ  
中ニハ大統領ノ個々ノ諸政策ニ付或ハ其ノ成否ヲ疑ヒ或ハ  
兎角ノ批評ヲナスモノアルモ一般民衆ハ理屈ヲ抜キニシ兎  
ニ角「ルーズベルト」ノ諸政策ノ結果現實ニ職ヲ與ヘラレ  
或ハ貨銀ノ増加ヲ受ケ或ハ耕作物ニ對シ以前ニ勝ル對價ヲ  
得居レルヲ以テ依然「ルーズベルト」ニ信賴ヲ置キ居レル  
モ亦事實ニシテ從テ前述ノ如キ改選ヲ控ヘ居ル議員モ假令

心中大統領ノ政策ニ反対意見ヲ有シ居リテモ公然トハ之レ  
ニ楯ヲ突キ得サル實狀ニアリ  
(2)加フルニ「ルーズベルト」自身モ議會内ノ風向キヲ察ス  
ルニ極メテ敏ニシテ其ノ指導的地位保持上必要ナル場合ハ  
臨機應變相當ノ讓歩ヲ爲シ現ニ退役軍人ノ議會内ニ於ケル  
勢力擡頭ノ徵アルヤ恩給年金ニ關シ妥協案ヲ採用シ又中西  
部ノ銀ヲ產スル諸州ノ人氣ヲ繫ク爲銀貨鑄造案ヲ實施シ近  
クハ一九三四年金準備法案ノ通過ニ際シ民主共和兩黨内保  
守派ノ反対ヲ切崩ス爲或主要條項ノ存續期間ヲ一ヶ年ニ限  
リ之ヲ臨時措置トスルコトニ讓歩シタル事實アリ  
(3)政府ノ復興政策ハ往電第一〇三號ノ通細目ニ於テハ未タ  
幾多ノ補正ヲ要スル點アルモ其大綱ハ略々順調ニ實施セラ  
レツツアリト云フヲ得ヘク又一般經濟狀態モ一進一退ノ變  
化ヲ爲シツツモ漸次改善ノ跡ヲ示シ居ルハ事實ニシテ政府  
モ大体最初ノ試鍊期ヲ經過シタルモノト見最近第二段ノ策  
トシテ一方從來ノ不備或ハ運用上ノ不都合ヲ矯正スルト共  
ニ他方外國トノ通商關係改善ニ注意シ來リ今議會ニ對シテ  
モ右趣旨ノ諸法案通過方ヲ希望シ居レリ今議會ニ提出セラ  
ルヘシト傳ヘラルル重要法案トシテハ農務陸軍各省ノ一九

三五年度歳出法案增收ヲ目的トセル收入法改正法案農業救濟案修正法案投資證券賣捌取締法修正法案株式市場取締法

與スル案等アリ此等ハ今後議會内ノ情勢ニ應シ漸次議會ノ

討議ニ登リ成案ヲ見ルヘシト豫想セラル尤モ民主黨領袖ハ  
今(秋)ノ議員改選ノ第一歩トシテ今夏早々各地方ニ於テ候  
補者ノ任命行ハレサルヘカラス之カ運動ノ爲議會ハ成ルヘ  
ク四月中遲クモ五月上旬迄ニハ切上ケ度キ希望ヲ有シ居ル  
趣ナルヲ以テ相當議論ノ餘地アル互惠通商協定權限賦與法  
案ノ如キハ或ハ今期議會ニハ提案ヲ見合スヘシト見ル向キ  
アリ

編注 二月十日發在米國武富臨時代理大使より広田外務大臣宛電報第一〇五号において二年間が一年間に訂正  
されている。  
~~~~~

294 昭和9年2月20日 在米国斎藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 産業復興法不正競争条項の最初の適用事例と

なり得る鉛筆問題への我が方協調的態度の有

用性について

ワシントン 2月20日後発  
本省 2月21日後着

### 第一二四號

十九日國務省ヨリ日本鉛筆ノ對米輸出問題ニ關シ協議シタ  
シトノ求アリタルニ付倭島ヲシテ往訪セシメタル處國務次  
官補「セイヤー」ハ極東部員並N、R、A「インポート、  
ディビジョン」部長「ライダー」立合ノ上ニテ「コンフィ  
デンシヤル」ノ話ナルガト前置シ日本鉛筆ニ關シテハ既ニ  
産業復興法第三條E項ニ基ク公聽會行ハレ其ノ結果關稅委  
員會ハ鉛筆「コード」ノ實施上日本鉛筆ニ對シ相當高率ノ  
特別關稅(法律ニ所謂fees)ヲ賦課スルノ要アルヲ認メ之カ  
實現方ヲ大統領ニ報告慤懃シタルヲ以テ大統領ノ裁可アリ  
次第之カ實現ヲ見ルヘキ手筈トナリ居レルモ嘗テ貴方ヨリ  
「ライダー」ニ對シ日本側ノ意嚮申入ノ次第アリタルニ鑑  
ミ(客年往電第八九九號ノ二參照)事ノ決定ニ先立チ「エグ  
ゼクテイブ、コムマーシヤル、ポリシー、コムミティ」  
ニモ諮詢特別關稅賦課ニ代ハルヘキ何等カ辦法無キヤ御相

談スル次第ナルカ米國側ノ考ニテハ一種ノ「ジエントルメ  
ンズ、アグリーメント」ノ如キモノニ依リ日本側ニテ日本  
鉛筆ノ對米輸出量ヲ鉛筆「コード」ノ維持ヲ困難ナラシメ  
サル程度ニ統制セラルルコト可能ナラハ特別關稅賦課ノ方  
法ヲ「ドロップ」スルコトモ可能ナルカ如何ト尋ネタルニ  
對シ倭島ヨリ問題ノ決定前ニ於テ米國政府側ヨリ協調的申  
出アリタルハ日本政府側モ「アブリーシェイト」スル所ア  
ルヘキヲ述ヘタル上鉛筆ニ關シテハ既ニ日本ニ於テモ全國  
的組合成立シ居レルヲ以テ米國側申出ノ内容如何ニ依リテ  
ハ協調可能カトモ思ハル處米國側ニ具体案アリヤト尋ネ  
タルニ「セイヤー」ハ「ライダー」ト打合セタル上一九三  
三年ニ於ケル日本鉛筆ノ對米輸出量ハ十六萬「グロス」ナ  
リシ處

(2) 右數量ハ「コード」ノ維持ヲ困難ナラシムルモノナルニ付  
多クモ一年十二萬五千「グロス」ヲ限度トシ而モ一ヶ月一  
萬五千「グロス」以上ヲ出テサルコトニ折合着カハ特別關  
稅賦課ノ方法却下方大統領ヘ慾憲スル用意アリト述ヘ又所  
謂紳士協約ノ形式ニ關シテハ要ハ前述ノ目的達成ニ在リ形  
式ニ因ハルルヲ避ケ度モ米國政府ハ日本政府トノ了解ニ基

右鉛筆ノ米國側申出ハ產業復興法ニ基ク輸入制限或ハ特別  
關稅賦課ノ適用ヲ表面上避ケ政府間ノ紳士協定ニ依リ事實  
上「コード」實施ニ必要ナル程度迄日本品ノ輸入ヲ制限セ  
ントスルモノト認メラル處若シ前述ノ協定案成立ヲ見サ  
ル暁ハ既定ノ方針ニ依リ特別關稅賦課ノ方法ニ出ツヘキハ  
疑無ク  
而シテ產業復興法第三條E項ハ大統領ノ決定ヲ最終的ノモ  
ノト爲シ居ルヲ以テ一旦特別關稅賦課ニ決定セハ之カ撤廢乃

至緩和ノ餘地ハ全然無之次第ナルモ若シ紳士協約ノ形ニテ

問題ヲ取修メ置カハ後程輸入量ノ増加其ノ他ニ對シ尙交渉ノ餘地ヲ存スル次第ト存セラル元來本件ハ我方ヨリノ「サゼスンヨン」ニ基キ米國側カ産業復興法適用上杓子定規ナル行方ヲ避ケ協調的ニ出テタル最初ノ試ニシテ本件解決振ハ直接他ノヨリ重要ナル對米輸出品ニモ影響スル所アルヘ

シト存セラレ殊ニ目下米國ハ漸次産業復興法ノ適用ヲ嚴ニシ獨リ本邦品ニ對シテノミナラス諸外國ノ輸入品ニ對シテモ早晚輸入量等ニ關シ制限ヲ加フルノ態度ニ出ツヘキ情勢

ニアルヲ以テ此ノ際鉛筆ノ如キ左程重要ナラサル品田（客年往電第八九三號〔〕御参照）ニ對シテハ假令日本營業者側ニテ種々異論アル共之ヲ大局的見地ヨリ押ヘ我方ノ協調的態度ヲ示シ置クコトハ米國側ヲシテ將來ニ於テ他ノ重要な品ニ對シテモ一方の措置ニ出テス協調スルノ端ヲ開カシムルコトトナリ我方ニ取り寧ロ有利ナリト思考ス米國側ハ問題ノ至急解決ヲ希望シ前記提案ニ關シテハ三、四日中ニモ我方意囑承知シ度シト申シ居リタル趣ニ付右至急御詮議ノ上何分ノ儀御回電ヲ請フ

紐育商務官へ轉電シ、存米各領事〔ホノルル〕ヲ念ム）へ

暗送セリ

~~~~~  
295 昭和9年3月3日 在米国齋藤大使より  
廣田外務大臣宛（電報）

### 通商互恵協定締結権限付与に関する大統領教書の議会送付について

ワシントン 3月3日前発  
本 省 3月3日後着

#### 第一四一號

外國トノ通商互恵協定ニ關シ大統領ハ議會ニ對シ相當廣汎ナル權限ノ附與ヲ要求スヘシトハ昨年議會以來屢々セラレタルコト累次往電ニテ御承知ノ通ナルカ遂ニ二日議會ニ教書ヲ送り大統領ニ對シ外國トノ間ニ三箇年ヲ限度トセル「エグゼキューティヴ、コムマーシアル、アグリーメント」締結ノ權限ヲ附與シ且右目的達成ノ爲現行關稅稅率及輸入制限規定ヲ或程度迄變更スル權限ヲ附與スル法律制定方ヲ懇懃シ下院ニ於テハ直ニ右ニ應シ關係法案提出セラレタリ委細郵報

296 昭和9年3月4日 在米国齋藤大使より  
廣田外務大臣宛（電報）

### 大統領へ互恵通商協定締結権限を付与する現行関稅法修正案下院歳入委員長より提出について

ワシントン 3月4日後発  
本 省 3月5日後着

#### 第一四九號

往電第一四一號ニ關シ

二日歲入委員長 Doughton ハ現行關稅法修正法案ヲ下院ニ提出シ直ニ歲入委員會ニ附託セラントナルカ同法案ハ關稅法 Title three ノ末段ニ大要左ノ語句ヲ挿入セントスルモノナリ

（）互惠的取極ニ依リ米國生產品ノ外國市場ヲ擴張セントスル見地ヨリ大統領ニ於テ現行關稅或ハ他ノ輸入制限規定カ

米國通商貿易ニ不當ノ障礙又ハ制限ヲ與ヘ居レル事ヲ認メ或ハ本法ニ基ク權限行使ニ依リ市場擴張ヲ爲シ得ルト認ムル場合ハイ外國政府或ハ其代表者ト「フオーレン、トレイングリーメント」ヲ締結スル權限ヲ有シ（）右「アグリーメント」實施ニ必要ナル限度ニ於テ現行關稅又ハ輸入制限

~~~~~  
Paragraghs three six nine

Last sentence of paragraph one four zero two

Provisions to Paragraph three seven one, four zero one, one six five zero, one six eight seven and one eight zero three (1)

Section three three six

尚 Section<sup>(a)</sup>

尚 Section<sup>(a)</sup> three one one ハ本法ニ基ク「アグリーメント」

ニハ適用ナキモノトス

四本法ニ基ク「アグリーメント」ハ關係外國政府ヘ妥當ナル通告ヲ爲シタル上協約實施ノ日ヨリ三ヶ年ヲ出テサル期間内ニ終了ス又若シ三ヶ年以内ニ終了セサル場合ハ其後六ヶ月ノ豫告期間ヲ與ヘタル後終了ス

297 昭和9年3月10日 在米国井上(豊次)大使館商務書記官  
より 広田外務大臣宛(電報)

日米間輸出入均衡化方策に関する米国側との意見交換について

ニュー・ヨーク 3月10日後発  
本省 3月11日後着

第一二號

曩ニ在米大使發貴大臣宛電報第一三七號ノ鉛筆ニ關スル交渉ヲ切懸ニ他ノ種本邦商品ニ付懇談ヲ遂ケ度旨N、R、A輸入部長「ライダー」ニ申入レ置キタル處快諾ヲ得タルニ付九日華府ニ於テ特ニ「ライダー」及同部内日本品係官ト本官限リニテ非公式ニ懇談シ本官ヨリ昨今問題トナリ居ル

商品ニ付本邦側ノ立場ヲ詳細ニ説明スルト共ニ米國政府當局ノ意図ヲモ探リタルカ其ノ要領左ノ如シ  
「本邦對米貿易ハ昨年一億二千八百萬圓ノ入超ヲ來シタルカ之ニ加フルニ公社債利子及減債資金等ノ本邦對米支拂額ヲ一億圓ト見積レハ假ニ他ノ日米貿易外收支カ相殺セラルトシテモ本邦ハ米國ニ對シ年額三、四億圓ノ支拂勘定ヲ負ヒ今後モ生絲及棉花ノ貿易關係カ著シキ變化ヲ示サセル限り本邦對米貿易ハ入超ノ傾向ヲ免レサルヲ以テ日米間ノ收支關係ヲ改善シ兩國間ノ通商關係ヲ助長スル爲ニハ右「デファイシット」ヲ償フ丈ヶ餘計ノ商品ヲ本邦ヨリ米國ニ輸出セサルヘカラス然ルニ本邦輸出品ノ大宗タル生絲ハ最近人絹ニ押サレテ高値ヲ保持シ得ス又不況ノ爲米國消費量モ思ハシカラス他方主要輸入品タル米棉ハ本邦ニ取り必要原料ニシテ其ノ買付量ニ付テハ印棉ノ關係ニ依リ多少ノ變化アリトスルモ今後本邦綿業ノ發達ニ連レ米棉需要增加ノ趨勢ヲ示スヘク又米棉ノ値上リニ依リ本邦側對米支拂額ハ減少セサルヘシ故ニ我對米入超ヲ償フニハ雜貨輸出ニ俟ツ處多キ爲一項目トシテハ少額ナル雜貨ト雖重大ナル意味ヲ有スル處ナリ而シテ輸出入ノ均衡ヲ計ラントスルコトハ外

務、農務、商務各長官カ八日下院歲入委員會ニ對シ大統領ノ關稅協定權限問題ニ關シ述ヘタル貿易政策中ニモ現ハレ

其ノ間兩者ニ對シ妄當ナル措置ヲ執ラントスルニハ多大ノ苦心ヲ爲シツツアル旨述ヘタルヲ以テ

居ル處日米通商關係ニ於テモ之ヲ目標トスルコト妥當ナルヘク然ルニ昨今米國製造家中ニハ兎角N、R、Aノ名ニ於テ自己製品ノ獨占ヲ計ル者アルカ如ク之ト競爭ニナル本邦雜貨ニ付種々問題ヲ起スハ遺憾ナリ元來米國製造家ニ排斥セラル本邦雜貨ハ主トシテ廉價品ナルカ之カ當國ヘノ輸入增加ハ不況ニ苦メル米國一般消費者カ廉價品ヲ求ムルコト切ナルニ當リ此ノ需要ヲ滿足セシムル爲必然ニ起レル供給ヲ本邦ニ依レルモノニシテ此ノ意味ニ於テ本邦品ハ米國一般ヨリ感謝セラルヘキモノナルニ拘ラス却テ少數米國製造家ノ利害ヨリ惡様ニ宣傳セラレ輸入防遏運動ヲ惹起スルカ如キハ不公平ナラスヤ云々ノ論旨ヲ本官私見トシテ開陳シタル處「ラ」ハ之ヲ尤モナリトシ熱心ニ傾聽シタル上米國製造家ノ獨占ニ對シテハ米國政府當局ハ之ヲ排撃スルコト勿論ナルカ實際問題トシテハ製造家ハ有力ナル團體ニ依リ合法的措置ヲ求メ來ル以上之ヲ押ヘルコト仲々困難ナリ又消費者ハ廉價品ヨリ利益ヲ受クルモ之ヲ實際上擁護スルノ力無キヲ以テ政府カ一般公衆ノ利益ヲ考慮スル外無キモ

商品ニ付本邦側ノ立場ヲ詳細ニ説明スルト共ニ米國政府當局ノ意図ヲモ探リタルカ其ノ要領左ノ如シ  
「本邦對米貿易ハ昨年一億二千八百萬圓ノ入超ヲ來シタルカ之ニ加フルニ公社債利子及減債資金等ノ本邦對米支拂額ヲ一億圓ト見積レハ假ニ他ノ日米貿易外收支カ相殺セラルトシテモ本邦ハ米國ニ對シ年額三、四億圓ノ支拂勘定ヲ負ヒ今後モ生絲及棉花ノ貿易關係カ著シキ變化ヲ示サセル限り本邦對米貿易ハ入超ノ傾向ヲ免レサルヲ以テ日米間ノ收支關係ヲ改善シ兩國間ノ通商關係ヲ助長スル爲ニハ右「デファイシット」ヲ償フ丈ヶ餘計ノ商品ヲ本邦ヨリ米國ニ輸出セサルヘカラス然ルニ本邦輸出品ノ大宗タル生絲ハ最近人絹ニ押サレテ高値ヲ保持シ得ス又不況ノ爲米國消費量モ思ハシカラス他方主要輸入品タル米棉ハ本邦ニ取り必要原料ニシテ其ノ買付量ニ付テハ印棉ノ關係ニ依リ多少ノ變化アリトスルモ今後本邦綿業ノ發達ニ連レ米棉需要增加ノ趨勢ヲ示スヘク又米棉ノ値上リニ依リ本邦側對米支拂額ハ減少セサルヘシ故ニ我對米入超ヲ償フニハ雜貨輸出ニ俟ツ處多キ爲一項目トシテハ少額ナル雜貨ト雖重大ナル意味ヲ有スル處ナリ而シテ輸出入ノ均衡ヲ計ラントスルコトハ外

同時ニ鉛筆ノ件同様凡テ決定前ニ協調的相談アリ度旨ヲ申入レタル處「ラ」ハ權限上許サル限リ本邦側トノ協調方ヲ斡旋スル旨ヲ約シタリ

三、現ニ米國製造家ヨリ調査方申請中ナリト傳ヘラル鮪罐詰及陶磁器ニ付意見ヲ求メ更ニ何等本邦側ニテ事前ニ探ル可キ措置アラハ「サジエスト」セラレ度旨依頼シタル處

「ラ」ハ調査方申請ヲ受ケタル本邦關係商品ハ右二商品ノ外絹織物モアルカ鮪罐詰ニ對シテハ近ク開始セラル可キ加州ニ於ケル日米當業者ノ會商ノ模様ヲ靜觀スルコトニ決シ陶磁器ニ付テハ考慮中、絹織物ハ單ニ「シルク、シャーティング」ニ對スル問題ナルモ「コンプレーント」ノ内容不明ナルヲ以テ取調中ナリト答ヘタルニ付本官ハ本邦ニ於ケル右各產業ノ統制狀況ヲ説明シ各輸出品ニ對シ大體N、R、Aニ準シタル組合統制勵行セラレツツアルモ政府ニ於テハ更ニ之カ完壁<sup>金剛</sup>ヲ計ラントシテ種々ノ手段ヲ講シツツアルヲ以テ其ノ效果ノ現ハル迄暫ク靜觀セラレ度ク尚鮪ニ關スル日米當業者ノ會商ハ米國側カ獨占ヲ希望スル間ハ協定困難ナルヤモ知レサルニ付右會商ノ結果如何ニ拘ラス本邦側ノ自制ニ依ル數量及價格ノ協定ニ重キヲ置カレ度旨ヲ希望

外絹織物モアルカ鮪罐詰ニ對シテハ近ク開始セラル可キ加州ニ於ケル日米當業者ノ會商ノ模様ヲ靜觀スルコトニ決シ陶磁器ニ付テハ考慮中、絹織物ハ單ニ「シルク、シャーティング」ニ對スル問題ナルモ「コンプレーント」ノ内容不明ナルヲ以テ取調中ナリト答ヘタルニ付本官ハ本邦ニ於ケル右各產業ノ統制狀況ヲ説明シ各輸出品ニ對シ大體N、R、Aニ準シタル組合統制勵行セラレツツアルモ政府ニ於テハ更ニ之カ完壁<sup>金剛</sup>ヲ計ラントシテ種々ノ手段ヲ講シツツアルヲ以テ其ノ效果ノ現ハル迄暫ク靜觀セラレ度ク尚鮪ニ關スル日米當業者ノ會商ハ米國側カ獨占ヲ希望スル間ハ協定困難ナルヤモ知レサルニ付右會商ノ結果如何ニ拘ラス本邦側ノ自制ニ依ル數量及價格ノ協定ニ重キヲ置カレ度旨ヲ希望

298

昭和9年4月4日

在ニュー・ヨーク沢田總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

米國・南米諸国および我が方間の貿易不均衡調整のため三者間に三角協定を結ぶべしとす  
る我が方通商局長談話報道について

ニュー・ヨーク 4月4日後発  
本 省 4月5日前着

第四九號(後廻電報)

一、三月廿六日ノ東京發A、Pハ來栖局長ノ談トシテ日本及米國カ夫夫相手國ヨリ輸入スル棉花及生絲ニ對シ無稅据置ヲ保障スル通商協定ニ付交渉スル必要有ル事、最近日本品ノ南米進出著シキモ南米ヨリ輸入スヘキモノ無キ爲輸出超

過ノ狀態ナルカ日本ハ米國ヨリ輸入超過ノ狀態ニアルヲ以テ此ノ不均衡ヲ調整シ貿易ヲ促進スル爲日米兩國ニ於テ南米諸國トノ間ニ三角協定ヲ結フ事然ルヘシトノ趣旨ヲ報道セルカ右ハ日本商品ノ南米進出ヲ恐レ居ル米國當業者ノ注意ヲ惹クト共ニ從來ヨリ生絲課稅ヲ運動シ居レル人絹業者ハ逸早クスル協定ハ人絹工業ノ一大脅威ニシテ協定成立ノ曉ハ恐ラク日本ハ生絲ノ値段ヲ引下ケ米國ノ人絹工業ヲ潰シ日本ノ人絹業發達ヲ計ルヘク又日本カ米棉ノ無稅据置ヲ約スル丈ヶテハ何モナラス米棉ノミヲ買付クル事ヲ約束セ

サル限り相場次第ニテ最モ經濟的ナル棉花ヲ買ヒ得ル譯ナルヲ以テ右協定ハ日本ノミヲ利スル一方的協定ナリトノ反對意見ヲ二、三新聞紙上ニ發表セリ

三、三日ノ各紙ハ「日本品ハ世界通商ノ脅威ナリ」等ノ見出ノ下ニ二日倫敦發ヒ、Pトシテ前駐伊大使「チャイルド」カ(ルーズベルト)大統領ノ委囑ニ依リ各國ノ經濟狀態調査ノ爲派遣セラレタリト傳ヘラル)日本商品ノ競争狀態研究力自分ノ最モ重要ナル任務ノ一ナル事、英國實業家ハ日品ノ競争ハ之ニ對抗スル手段無キ爲終局ニ於テ世界ノ生活標準低下ヲ招來スヘシトノ意見ナルカ自分モ之ニ同感ナ

シタル處「ラ」ハ米國製造家ノ要求ハ何レモ相當强硬ナルヲ以テ日本側ハ速ニ統制ヲ實行シ其ノ效果ヲ實證スルニアラサレハ何時迄モ日本側ニ同情シ居ル譯ニ行カストテ問題ノ商品ニ對シテ統制促進方ヲ要望シ右ニ付今後氣付ノ點ハ大使館員乃至本官迄内示スヘシト口約セリ  
在米大使及紐育總領事トモ協議済

シタル處「ラ」ハ米國製造家ノ要求ハ何レモ相當强硬ナルヲ以テ日本側ハ速ニ統制ヲ實行シ其ノ效果ヲ實證スルニアラサレハ何時迄モ日本側ニ同情シ居ル譯ニ行カストテ問題ノ商品ニ對シテ統制促進方ヲ要望シ右ニ付今後氣付ノ點ハ大使館員乃至本官迄内示スヘシト口約セリ  
在米大使及紐育總領事トモ協議済

一、米國輸入本邦鮪罐詰問題ニ関シ對米協議ノ爲メ關係業者ヨリ成ル特別委員會設置セラレ(三月一日)本件解決方法講究ニ着手セリ

二、先般色付軸燐寸ニ對スル内國消費稅增徵法案當國下院ニ提出セラレタル處之レカ本邦燐寸ニ及ホスヘキ影響少ナカラサルニ付本邦當業者ヨリノ申入レニ應シ本件對策ヲ協議セリ

三、「ペリー・デー」祝賀會開催方ニ関シ當地發起團體ノ一員トシテ種々協議スル所アリタリ

四、移民間題ニ関シ本邦移民ニ對シ「クオータ」制適用方ニ関スル決議ヲ草シ本協議會ノ母體團体タル「ナシヨナル・フォーリン・トレード・カウンシル」ニ提出スルコトトナレリ

五、近ク日米互惠通<sup>(商々)</sup>協定問題ニ關聯スル一般的事項ニ付意見ノ交換ヲ行フ筈

尙「ナシヨナル・フォーリン・トレード・カウンシル」ニ於テハ今回其最初ノ試トンテ同會員及同關係團体ニ對シントシテ當國外國貿易ニ關スル諸問題ノ情報供給ノ目的ヲ以テ毎週「ニュース・リリース」ヲ發行スルコトトナリ其初

## 第六五號

當地朝日特派員ヨリ日本通商協議會議長ニ對シ日本紡績品ニ關スル英國ノ歩合制採用ニ付意見發表アリ度旨希望シ來リタル趣ニテ十一日同商協議會カ淺野氏立寄ヲ機會トンチ會合シタル席上ニテ議長提出ノ原案報告ヲ討議シタル結果月曜ノ新聞ニ『國際通商ニ對スル人爲的障礙ノ撤去カ世界通商ノ恢復ニ必要ナル今日一國カ他國商品ニ對シ一方的ニ歩合制ヲ適用スルハ甚タ遺憾ニテ日米通商關係ハ互惠的通商協定ノ友好的交渉ニ依リ最モ有效ニ増進サルヘク地理的經濟「ブロツク」差別的通商協定歩合制其ノ他ノ通商障碍ハ其ノ最モ重大ナル障碍タリ高度ノ競争品ニ付テハ一方的報復措置ニ依ラス最近鉛筆協定ノ如ク互讓ノ精神ヲ以テ相互ノ理解ニ依リ圓滿解決シ得ヘク日米間ノ通商上ノ困難ハ互惠的通商ノ增進ニ關係アル一切ノ問題ニ對スル相互理解ノ精神ヲ以テ處理セラレンコトヲ望ム』トノ趣旨ヲ發表スルコトトナレリ

英、米へ轉電シ、在米各領事へ暗送セリ

~~~~~

301 昭和9年5月20日 在米國齋藤大使より

廣田外務大臣宛(電報)

金銀複本位制採用問題に関する米國議会内銀

支持者および大統領の動向について

ワシントン 5月20日後発

本 省 5月21日前着

第二六九號

往電第三四號ニ關シ(金純分切下ニ關スル大統領教書ノ件)

過般金準備法制定ノ際大統領ハ銀ニ關シテハ今少シク見据

付ク迄何等ノ措置ヲ講セサル方針ナル旨ノ「メッセージ」

ヲ議會ニ送リタルモ議會内ノ所謂「シリヴァー、ブロツク」ハ銀價釣上策ニ熱中シ

(イ)米國輸出品ニ對シテハ市價ヨリ二五%高ノ銀ヲ以テ支拂

ヲ受クルコトヲ得セシメ政府ハ右外國銀ヲ更ニ「オンス」

五〇仙ノ値段ニテ買上クヘキコト

(ロ)銀價ヲ金一二對シ銀一六ト決定シ銀ヲ本位貨幣トスヘキコト

ノ二法案ヲ提出シ又上院ニ於ケル「ピットマン」一派ノ銀支持者ハ熱心ニ大統領トノ間ニ折衝ヲ重ねツツアリタルカ

號及第二號トシテ別添「リリース」ヲ配付セルカ當館ヨリハ日米協議會側ニ對シ隨時本邦貿易統計、不正競爭取締法、輸出組合法等ニ關スル情報ヲ供給シ居レリ

右何等御参考迄報告申進ス

追テ日米協議會日米委員ニ關シテハ本年一月五日付機密第一七號拙信ヲ以テ報告シ置キタル處其後本邦人側ニ於テハ前任堀内總領事帰朝ノ後ヲ承ケ本官「エクスオフィシオ」委員ニ就任シ又執行委員中三菱商事前支配人風間武三郎ニ代リ新支配人小松茂就任セルニ付爲念申添フ

本信寫送付先 在米各館(在米大使ヲ除ク他ノ公館ヘハ別紙省略ス)

300

昭和9年5月12日 在ニューコーク沢田總領事より

広田外務大臣宛(電報)

英國による輸入割当制実施に際し日米間互恵的通商關係増進の必要性を説いた日米通商協議會議長声明について

ニュー・ヨーク 5月12日前発

本

省

5月13日後着

大統領ハ銀ヲ本位貨幣トスルコトハ貨幣ノ健全性ヲ害スル  
惧アルノミナラス銀ニ關シテハ國際協定ノ成立ヲ見ルニ非  
サレハ米國單獨ニ決定措置ヲ講スルハ甚々危險ナリトノ見  
解ノ下ニ容易ニ贊意ヲ表セサリンモ十七日ノ諸新聞ハ「シ  
ルヴァー、ブロツク」ハ遂ニ大統領トノ間ニ了解ヲ遂クル  
ニ成功シ大統領ハ一兩日中ニ本件ニ關シテ銀塊ニ對シ「メ  
ッセージ」ヲ送ルヘク同時ニ大要左ノ通ノ法案(大藏省起  
草中)ノ提出ヲ見ルヘシト報シ居レリ

一、金銀兩者ヲ貨幣本位ト定メ兩者ノ準備比率ハ金七五ニ對  
シ銀二五トス

二、政府ハ右政策實行ノ爲必要ナル銀ノ購買ヲ爲スノ權限ヲ  
有ス

三、政府ハ國內ノ貯藏銀ヲ總テ國有ニ歸シ一「オンス」五〇  
仙ヨリ低カラサル値段ニテ買上クルコトヲ得

四、政府ハ銀準備ノ爲一「オンス」一弗二九仙以内ニテ外國  
銀ヲ購買スルコトヲ得(外國ヨリ購買セラルヘキ銀ノ總額  
ハ一八億「オンス」ニシテ右ニ對シ二三億ノ銀券ヲ發行ス  
ヘシト云フ)

第一六六號

302 昭和9年6月9日 広田外務大臣より 在米国齋藤大使宛(電報)

日本間の貿易調整に關する日本側立場米國へ  
申入れ方訓令

本省 6月9日後6時20分発

一、日米兩國貿易ノ推移ハ紐育商務書記官發本大臣宛電報第  
一二號ノ一ノ通り當分我方ノ入超狀態ヲ持續スルモノト  
思考セラル處兩國ノ產業ハ大体ニ於テ其ノ分野宜敷ヲ  
得我カ對米重要輸出品タル生絲、罐詰食料品、陶磁器等  
米國對日重要輸出品タル棉花、鐵類、木材、機械類、礦  
油等ハ概々相互ニ生產ナク競爭の立場ニアラサルヲ以テ  
共存共榮ノ主義ニヨリ互ニ輸入ヲ促進スルコトセハ日  
米兩國間ノ貿易ハ今後著シキ進展ノ餘地アルハ明ナリ現  
下世界各國カ經濟國家主義ニ依リ外國品ノ輸入ヲ制限シ  
國際貿易ヲ著シク阻害シ居ルニ不拘日米兩國間ノ貿易ハ  
右ノ如キ健實ナル基礎ニ建チ居ルヲ以テ兩國ノ努力次第  
ニテハ擴大增加ノ可能性多ク其ノ前途ハ洋洋タルヘキモ  
ノアリト云フヘシ

三、右ノ見地ヨリ我方トシテハ米國產業ト利害ノ衝突スル產  
業ニ關シテハ出來得ル丈調節ヲ計リ兩國貿易ノ大綱ニ支  
障ヲ來ササル様努力スル必要アルヲ認メ客年N·R·A  
ノ實施以來出來得ル限り右ノ趣旨ニテ米國政府ノ政策ニ  
誠意ヲ以テ順應シ國內ニ多少ノ反對アルニ不拘鉛筆、  
「ラグ・ラツグ」ニ付テハ自制的輸出制限ヲ行ヒ米國側  
ノ希望ニ副ヒ來レル次第ナリ

三、然ルニ鮑罐詰ニ對シテハ客年十二月關稅法第三三六條ニ  
依リ關稅引上ヲ爲シ又燐寸消費稅ノ增率ニ關シテハ立法  
機關ノ發動ニ藉口シ我方ヲシテ何等協議ノ餘地ナカラシ  
メ今又我對米重要輸出品タル陶磁器ニ對シ制限措置ニ出  
テントスルハ我方ノ甚々遺憾トスル所ナリ

由來對米輸出ノ陶磁器ハ米國官憲援助ノ下ニ輸出入業者  
間ニ價格ノ協定ヲ爲シ今日迄何等支障ナカリシ次第ニテ  
今後本邦品ニ對シ何等カノ苦情アリトセハ夫ハ當業者ノ  
協定ニテ解決スヘキ筋合ノモノト思考セラル素ヨリ本件  
公聽會ニ對スル對策トシテハ追テ電報スヘキモ斯ル我重  
要輸出品ニ對シ何等カノ制限ヲ設クルコトハ我方ノ對米  
入超關係ヲ一層擴大スル結果トナルヘキニ付米國政府ト

シテモ日米貿易ノ大局ヨリ之カ措置振ニ付テハ深甚ノ考  
慮ヲ拂フ必要アルヘシト存セラル

四、紐育ニ於テ日米通商協議會カ設立以來同會カ日米貿易ノ  
進展ニ異常ノ努力ヲ傾注シ居ルハ我方ノ多トスル所ニシ  
テ當地ニ於テモ之ニ「コーオペレート」スル爲近ク評議  
會設立スルコト相成リ居ル次第ナレハ向後ハスル機關  
ヲ利用シ政府間ノ交渉ト併行シ日米貿易ノ促進ニ邁進シ  
度キニ付在紐育總領事ト協力ノ上通商協議會ノ指導ニ付  
テモ特別御配慮アリ度シ

五、既ニ本邦品ノ輸入制限ノ都度米館員ヨリ先方係員ニ我方  
ノ立場ヲ説明シ居リ相當了解シ居ルコトハ存セラル  
モ今後ノ交渉ノ指針トシテ貴官ハ米國政府ニ對シ一、二  
及三ノ點ヲ力説セラレ目下問題トナリ居ル陶磁器、鮑等  
ニ關シテハ充分好意的考慮ヲ加ヘ我方ノ要求ヲ容認スル  
様豫メ了解ヲ取付ケ置カレ度シ  
紐育商務官ヘ轉電シ在米各領事ニ暗送アリ度シ

## 大統領への互惠通商協定権限付与に関する現

行関税法修正案の大統領裁可とハル国務長官のステートメントについて

ワシントン 6月14日後発

本省 6月15日前着

往電第三〇二號ニ關シ

第三〇八號

本案ハ十二日愈大統領ノ裁可アリ即刻效力ヲ發生スルニ至リ大統領ハ何時タリトモ三箇年ノ期限ヲ以テ諸外國トノ條約ニ於テ五〇%ノ範囲ニ於テ税率ノ増減ヲナスノ権限ヲ有スルコトトナリタル次第ナルカ國務長官ハ本案ノ裁可ト共ニ「ステートメント」ヲ發シ今回大統領ニ對シ斯ノ如キ廣汎ナル權限ヲ附與セラルニ至リタルハ現下世界ノ不健全ナル國際貿易ノ情勢ニ鑑ミ一方ニ於テ國際交易ノ圓滑ヲ計ルト共ニ他方萎靡セル米國產業ノ復興ヲ目的トルモノニシテ政府ハ此ノ二大目的ノ爲ニ最善ヲ盡サントスルモノナリ然レトモ政府ハ此ノ際嚴ニ輕舉ヲ戒メ諸外國トノ協定ニ當リテハ先ツ事態ノ細密ナル調査ト情報蒐集(ニ)意ヲ用ヒ

右調査ト情報ニ基キ徐々ニ各國トノ話合ヒヲ進ムル意向ニ紐育ニ轉電アリ度

ル今日其ノ效果乃至今後ノ成行ニ關シテハ近來新聞紙等ニ種々報道セラレ居レル處申ス迄モナク右方策ノ米國政治及財政經濟方面ニ對スル效果如何ハ我方ニトリテモ影響スル所多ナルモノアリ本邦各方面ニ於テ大ナル關心ヲ以テ之ヲ注視シ居ルニ付右ニ關シテハ從來屢次御報告ノ次第ハアルモ今後共充分御留意ノ上隨時報告セラレ度

在米國斎藤大使より

305 昭和9年6月21日

在米國斎藤大使宛(電報)

日本間貿易調整に関する我が方申入れとこれに關する國務長官との会談内容について

ワシントン 6月21日後発

本省 6月22日前着

第三二七號

(<sup>①</sup>貴電第一六六號ニ關シ(日米通商貿易問題)

十九日(代理官ノ聯絡依頼ノ爲藤井參事官帶同)國務長官ニ會見シ右貴電一、二、三、ノ御趣旨ヲ覺書ニ認メタルモノヲ手交シ且日米間ノ貿易關係ハ幸ニシテ相互依存的ニシテ

304 昭和9年6月16日 広田外務大臣より  
在米國斎藤大使宛(電報)  
第一七四號  
産業復興法其他ノ經濟回復策ハ其ノ實施後約一年ヲ經過セ  
るためその効果および今後の成行などにつき  
隨時報告方訓令

本省 6月16日後8時40分発

米国の産業復興策は我が方にとり影響大であ  
ケート」シ居ルニ付其ノ運用旨ク行カサルニ至リ之レ今日難局ニ立チ居ル一ノ重要原因ナリト考フ故ニ之ヲ恢復スル爲ニ總ユル努力ヲ盡ササルヘカラスト確信ス自分カ過去四年間ニ亘リ成立セシメント努メ居タル互惠通商法(累次報告ノ「ドートン」法案)ハ則チ此ノ精神ニ出ツルモノナリトノ趣旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ然ラハ今日歐洲等ニテ頻リニ努メ居レル一國ト一國トノ間ノ貿易額ヲ「バランス」スト云フコトニハ必スシモ御賛成ニハアラサルヤ三角貿易ニ付實ハ日本側ニテモ通商局長カ同趣旨ノコトヲ述ヘタルコトアリ同様ノ考ヲ有スト思ハレ右カ常識的且自然的ト認メラルモ現在歐洲諸國ハスル方針ヲ採リ居ラサルカ如シト述ヘタルニ長官ハ自分ハ二國間ノ貿易ヲ「バランス」サスルコトハ無理ニシテ之ヲ試ミ居ル歐洲諸國ハ愈困難ノ状況

ニ向ヒツツアルニアラスヤト判断ス即チ自分ハ二國間ノ貿易カ根幹ナルハ當然ナルモ其ノ何割カハ結局三角貿易ニ依リ補ヒ行カサレハ世界ノ貿易ハ圓満ニ行ハレサルヘント「ブロード、ライン」ヨリ互惠通商ヲ主張スルモノナリト説明セルヲ以テ本使ハ互惠トハ二國間ノ貿易ヲ根本トルニアラスヤト言ヘル處

長官ハ互惠トハ二國間ニ於テ或種目ヲ協定シテ其ノ關稅ヲ御互ニ下クルコトシン他ノ國モ最惠國條款ニ依リ之ニ均霑セシメ右ニ依リ漸次一般的ニ關稅率ノ低下ヲ齎サントスル趣旨ナリト述ヘ本使ヨリ最近歐洲諸國ノ所謂互惠トハ「ブロック」經濟ヲ意味シ最惠國條款ノ適用ニハ反對ナリト思フカ如何ト尋ネタルニ對シ長官ハ米國トシテハ無條件ニテ最惠國條款ニ依リ他國ニ均霑セシメ之ニ依リ世界ノ貿易ヲ平常狀態ニ復セシメント企圖シ居ルモノナリ從テNRA、AAAノ如キ非常時ニ對スル臨時措置ニ付テモ右根本方針ニ副フ部分ハ之ヲ維持スヘキモ單ニ不況切抜ノ爲ノ應急措置トシテ遣リ居ル部分(ハ)漸次廢止シ平常貿易ニ復スル様努ムル要アリト述ヘタリ

依テ本使ハ私見ニ依レハ日米間ノ貿易關係ハ棉及絹ヲ大宗

在米各領事(「ホノルル」ヲ含ム)へ暗送セリ

306 昭和9年6月28日 在米國藤井臨時代理大使より

銀購買法案の米国議会における可決と大統領  
の裁可および今後の政府の対応について

ワシントン 6月28日後発  
本省 6月29日前着

第三三五號

往電第二九四號ニ關シ(銀購買法案ニ對スル教書ノ件)

本法案ニ對シテハ上院ニ於テ一、三ノ修正案出テタルモ何

レモ否決セラレ結局十一日五四對一五ニテ殆ト原案通ニテ

通過シ又下院ニ於テモ十三日之ヲ可決シ次テ去ル十九日大

統領ノ裁可ヲ見タルカ財界ハ概シテ冷靜ニシテ之カ爲金融

界ニ著シキ變動ヲ與フルカ如キコト無キモノト一般ニ觀測

セラレ居レリ

本法ニ依リ將來政府ニ於テ買上ヲ要スル銀量ハ約十三億

「オンス」ト見積ラレ居ルカ政府ハ曩ニ本法議會上程ノ頃ヨリ本法ノ成立ヲ見越シ既ニ着々銀買上ヲ實行シ居レル趣

トシ日本ノ輸入超過續キ居ル次第ナレハ成ルヘク其ノ差額ヲ少クスル爲日本ヨリノ輸出品例ヘハ唯今問題トナリ居ル物ノ輸入ノ如キモ之ヲ確實ニスル様セサレハ「バランス」ノ差益々多クナルヲ惧ルト述ヘタルニ長官ハ右ハ其ノ通ナルモ其ノ點ハ重要ナル問題ニアラシシテ列國ト最モ自然ニ有利ニ貿易ヲ爲シ得ルコトノ建前ヨリ其ノ貿易ノ増進ヲ圖ルコトカ緊要ナリ故ニ日米間ニ於テモ貿易ノ「バランス」カキツチリ合フト云フコトヨリモ寧ロ他ノ方面ニテ差額ヲ補フモ可ナレハ兎ニ角貿易ヲ增進スルノ方針ヲ採ルコトヲ要スト答ヘタリ

最後ニ本使ハ貴電合第三一號御申越モアリタレハ更ニ附加方ヨリ言フモ亦貿易ノ差額ヲ少クスル方ヨリ言フモ且下問題トナリ居ル諸點ハ充分御考慮ヲ願度ク殊ニ鮪ニ付テハ日本側モ自發的ニ輸出制限ヲ爲スヘキニ付米國側ニテ不意打的ニ關稅引上等(ヲ)爲スカ如キコト無キ様御願スト述ヘタルニ長官ハ是等ノ點ニ付テハ勿論充分考慮ヲ拂フヘキ旨答ヘタリ(鮪ノ細目ニ付尙藤井參事官ヨリ「セイカ」ニ話ヲ爲ス筈)

ナリ而シテ政府ノ方針トシテハ將來本法ニ依ル買上銀ニ對シテ發行スル證券ノ價格ハ銀一「オンス」五十仙ノ割合トシ一「オンス」一弗二十九仙ノ率ニハ依ラサルモノノ如キ處右ハ銀ニ對スル投機ヲ防止シ健全ナル銀價ノ維持ヲ計ランカ爲ト見ラレ居レリ  
紐育商務官ニ郵送セリ

307 昭和9年6月30日 在米國藤井臨時代理大使より

方覺書送付について  
(8月3日接受)

機密公第三三四號  
昭和九年六月三十日

在米

臨時代理大使 藤井 啓之助(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

日本通商關係ニ關シ齊藤大使ヨリ國務長官ニ對シ「メモランダム」手交ノ次第ハ曩ニ電報致シ置キタル處右「メモラ

1. From the present trend of commercial relations between Japan and the United States, it is highly likely that for some time to come the balance of trade will continue to be unfavorable to Japan.

2. But it is fortunate that industries in our two countries cover generally different fields. Japan's important exports to the United States are raw silk, canned foodstuffs, porcelain and potteries, etc.; while the United States' important exports to Japan are raw cotton, lumber, machinery, mineral oil, etc. It is a case of complementary and non-competitive trade. It is therefore plain that there are great possibilities of trade increase between our two countries as a concrete evidence of mutual helpfulness. While many countries are adopting the policy of economic nationalism and, by restricting importation, are greatly

ing, namely, those of tuna fish, matches, and porcelain and potteries, from the broad aspects of the Japanese-American trade.

With regard to canned tuna fish, import tariff was raised in December last, in virtue of Article 336 of the Customs Act.

With regard to matches, a raise in excise duties was suddenly effected and forestalled any chance of conciliatory negotiations.

With regard to porcelain and potteries, the United States Government is actually contemplating a restriction upon their importation. Heretofore, with the assistance of American authorities, the exporters and importers, both Japanese and American, of Japanese porcelain and potteries have been arranging about the prices and there have occurred no difficulties. If there should be any complaints, they are, it seems proper, to be adjusted among the merchants interested.

## MEMORANDUM

injuring international trade, the trade of our two countries is on such wholesome foundation and is capable of a great development through mutual efforts.

3. From such point of view, Japan has recognized the necessity of endeavoring to adjust as far as possible the interests of Japan and the United States in industries where competition may occur and thereby to avoid difficulties in the broad lines of our trade relations. Therefore, ever since the coming into force of the NRA regime in this country, Japan has in that sense sincerely tried to harmonize her trade policies with those of the United States. For instance, in the cases of pencils and rag rugs, Japan has complied with the desire of the United States by enforcing self-imposed restraint on exportation.

4. In the circumstance, the Japanese Government desire to request the United States Government to give serious consideration to the matters still pend-

Such restrictions on Japanese imports would only result in making Japan's unfavorable trade balance against the United States even more unfavorable, and would work prejudicially to the general trade relations between the two countries which are calculated to be more or less balanced and promise to increase in volume and value.

リ二井、三菱及鶴島器組合ノ二ノ者ノニヲ以テ各一千万弗

宛支出シ試み(リ)六ヶ(月)間「カ」ト契約シ其ノ間問題

トナルトキノ日本商品ニ付情報ヲ蒐集セシムルト共ニ

「タリフ、コムニシム」邊ト裏面ヨリ聯絡方ヲ委嘱

スルコトニ詰纏マリ大使館側トモ協議ノ上井上商務官ヲ

シテ「カ」ニ交渉セシメタル處「カ」モ右條件ヲ承諾シ

八月ヨリ六ヶ月間實施スルコトナリタリ

「尙本年二月以降「カ」トノ契約ヲ繼續スルヤ否ヤハ此ノ

六ヶ月間ノ成績ニ依ルコトトスくキ由「カ」(リ)話サセ

置キタルカ當面ノ雜貨問題ノミナラス將來日米政府間ニ  
一般通商問題ニ付協議協定ヲ開始スル場合大使館ニ於テ  
「カ」ヲ利用スルコトニ策ト思料セラル右ハ今後ノ成  
績如何ニモ依ルコトナルカ幸ヒ「カ」ハ齊藤大使トモ面  
識アルニ付將來ノ「カ」ノ傭聘利用ニ付歸朝中ノ同大使  
トモ豫メ御相談置相成度シ

米ニ暗送セリ

309 昭和九年八月二十日 在ニー・パーク沢田總領事より

広田外務大臣宛

日本通商協議会日本側機関の発表によれば  
貿易問題は認めたる協議会議長と國務長官  
同省極東部長間來往轉じて  
(9月28日接文)

機密第1五一號

昭和九年八月二十日

在紐育

總領事 澤田 廉二(品)

外務大臣 廣田 弘毅殿

鮑問題ニ関シ日米通商協議會利用ニ關スル件

本件ニ關シ答申中旬御來訓ニ基キ我方ノ意向ヲ石田三井支  
店長ヨリ日米通商協議會長「ムラバ」ニ申入レシメタル處  
「ムラバ」ハ年米貿易評議會長ノ名ニ於テ右我方ノ意向ヲ  
「ハル」國務長官等ニ傳達セル次第ハ既電ノ通ナルカ今般  
「ムラバ」ヨリ國務長官「ハル」トノ往復書翰並極東部長  
「ホーネムシク」ノ返翰写送附越アリ「ハル」ハ其七月九  
日附返翰中ニ於テ國務省其他關係當局ニ於テハ他國トノ通  
商關係ヨリ生ズル問題ヲ相互満足ナル基礎ノ下ニ調整スヘ  
ク慎重考慮シツ、アル並國際貿易ニ対スル不必要且人工  
的ノ制限除去ヲ目的トスル政策ノ遂行ニ寄與スベキ「サヤ

スチヨノ」ヲ歡迎ベキ血迹く距レリ

右前顯書翰写相添報告申進ベ

本信写送付先 在米各館

June 25, 1934.

Honorable Cordell Hull, Secretary of State

Department of State

Washington, D. C.

Dear Mr. Hull:-

As you have been advised, the National Foreign  
Trade Council organized, as from January 1, 1934, the  
American-Japanese Trade Council, under the advice and  
sponsorship of the Japanese Chamber of Commerce in  
New York, and Mr. Horinouchi, former Consul General,  
and now Director of the Bureau of American Affairs,  
of the Japanese Government.

There has been recently formed in Japan the  
Japanese-American Trade Council, as follows:  
Japanese members:

John C. Goold, Manager, Yokohama Branch of the  
Standard Vacuum Oil Company  
John Libby Curtis, Supervisor, Japan and Manchu-  
ria Branches, National City Bank of New York  
Benjamin Kopf, Manager, Ford Motor Company of  
Japan, Ltd.

Richard M. Andrews, President, Andrews & George Co., Tokyo

F. C. Thompson, Manager, Yokohama Branch, Dollar Steamship Lines

M. E. Blackmar, Manager, Branch of Douglas Fir Exploitation & Export Company

The following Americans will serve on the Council as deputy members of the Executive Committee:

Everett W. Frazar, senior Partner, Frazar & Company, Yokohama

Richard A. May, Managing Director, General Motors Japan, Ltd.

Otto Pruessman, Vice President, International General Electric Company, Tokyo

We were pleased to be advised by cable that, with thanks to the cooperation of the American Embassy, Foreign Office and the Japan Economic Federation, the inaugural meeting was a great success, being attended by Ambassador Grew, the Minister of Commerce and

desirous of negotiating with the Government of the United States on the matter through the Japanese Embassy at Washington, and that the volume of tuna fish export to this country may be voluntarily controlled in such a manner as was proposed by the Japanese interests during the abovesaid negotiations in California, until a mutually satisfactory arrangement is made between the two governments. It is sincerely hoped that in the meantime no unilateral action will be taken on the part of the United States for the purpose of preventing tuna fish import from Japan.

"According to the figures compiled by the Department of Commerce, Washington, D.C., the United States exported to Japan during 1933, \$143,434,000 while imports from Japan amounted to \$128,421,000, namely \$15,013,000 in favor of U.S.A. Yesterday, the New York Times reported during April, the United States exported to Japan \$14,823,732 while imports

Industry, and the Vice-Minister of Foreign Affairs, and congratulatory statements were made by the Ambassador and Foreign Minister Hirota. 532

The American-Japanese Trade Council in New York has had occasion to consider several of the important recent developments concerning proposed embargoes, or higher duties or quotas on Japanese imports into the United States. The subject of Tuna fish is now under consideration by the Tariff Commission, and we beg to quote from the following letter of June 22, 1934 from the Managing Director of one of the principal Japanese houses:

"As you may know, representatives of Japanese tuna fish industry were sent to California a few months ago to discuss the possibility of adjusting the differences with the American interests concerned, but unfortunately they were unable to arrive at an agreement.

"I am informed that the Japanese Government is

amounted to \$10,185,796."

As the foregoing letter discusses the question of our trade relations with Japan, I trust that the subject will receive due consideration by your Foreign Commercial Policy Committee and other Governmental agencies. To this end, we are sending a copy of this letter to Dr. Francis B. Sayre, Assistant Secretary of State, and to Dr. Stanley K. Hornbeck and Mr. George N. Peek.

Yours very truly,  
President.

DEPARTMENT OF STATE  
WASHINGTON

July 2, 1934.

Dear Mr. Thomas:

I have your letter of June 25, enclosing a copy of your letter of that date to the Secretary of State in regard to the formation in Japan of the Japanese-

American Trade Council and the general subject of trade relations between the United States and Japan.

(signed) Stanley K. Hornbeck,  
Chief,

Division of Far Eastern Affairs

I have read with care the contents of your letter to Mr. Hull. The formation in Japan of a Japanese-American Trade Council, which I assume will function

as a counterpart of the American-Japanese Trade Council in the United States, should prove, in my opinion, a useful step toward the fostering of mutually advantageous commercial relations between the two countries.

I assure you that the appropriate officers of the Government are continuing to give thoughtful attention to the question of trade relations between the United States and Japan.

I wish to take this opportunity of thanking you for the courtesy of the National Foreign Trade Council in sending copies of its weekly releases which contain, *inter alia*, interesting items in regard to the countries of the Far East.

Sincerely yours,

tions between the United States and other countries, and they are giving such problems careful consideration and attention. In this connection I would be glad to receive at any time from the National Foreign Trade Council any suggestions which may be calculated to contribute toward the execution of the policy of endeavoring to have removed unnecessary and artificial restrictions against international trade.

Sincerely yours,

(signed) Cordell Hull

~~~~~

310 昭和二年八月三日 松田外務大臣より  
在米国藤井謹吉代理大使宛(電報)

トヤコヨハリガタニ本品輸入禁制ヲアズル  
ニ付關稅元止カセ日本親善關係ニシテ緊密ス  
せすたる米國政府へ申入れ方訓仰

本 番 一九三四年八月三日後4時20分發

DEPARTMENT OF STATE  
WASHINGTON  
July 6, 1934.

My dear Mr. Thomas:

I acknowledge the receipt of your letter of June 25, 1934, stating that recently there has been formed in Japan the Japanese-American Trade Council and discussing the question of our trade relations with Japan.

I appreciate your courtesy and thoughtfulness in communicating to me the information contained in your letter.

I assure you that the Department and other appropriate agencies of this Government are appreciative of the desirability of adjusting on a mutually satisfactory basis the problems arising out of the commercial rela-

出處今次ノ關稅元上法案カ本邦品ノ輸入禁制ヲアズル  
トヤコヨハリガタニ本品輸入禁制ヲアズル  
ニ付關稅元止カセ日本親善關係ニシテ緊密ス  
せすたる米國政府へ申入れ方訓仰  
本 番 一九三四年八月三日後4時20分發

因ニ近年日比間貿易カ比島側ニ著シク不利ナル關係カ元上  
論者ニ好箇ノ口實ヲ供シ甚々遺憾ナルカ本來米國政府トシ  
テヤ必スシモニ國限リノ貿易均衡主義ニ贊成シ居ラサル  
ニナハス我大藏省ノ統計リ依レハ我方ノ比島產品ノ輸入ハ  
一九三一年八百九十萬圓(對比輸出)一千四十萬圓以下括弧  
(對比輸出)一九三二年九百七十萬圓(一千十一至一千二十萬圓)  
一九三三年一千四百十萬圓(一千四百萬圓)ニ逐年增加ノ趨  
勢ニ在ルカ故ニ彼我ノ協力如何ニ依シテハ雖々兩國通商關

係ヲ發展強化スルコト強チ不可能ニアラスト思考セラルニ付右等ノ事情ハ隨時必要ニ應シ先方ニ說示セラルル様致度シ馬尼刺ヘ轉電セリ

シ面白カラサル節アル様聞及ヘル旨述ヘタルニ付右ハ同總領事ノ趣旨ヲ故意ニ曲解シテ非難シ居ルモノナルヘシト應酬シ置キタリ

311 昭和9年8月25日

在米国藤井臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

フィリピン關稅引上げ問題に関する國務省極

東部長への申入れについて

ワシントン 8月25日前發  
本 省 8月26日前着

第三九五號

貴電第一三四號ニ關シ(比島議會ノ關稅引上問題)  
廿四日極東部長ヲ往訪貴電ノ御趣旨ニ依リ日比間ノ貿易ヲ破滅ニ導クカ如キ高率關稅案ノ制定ヲ見サル様米國政府ノ考慮ヲ促ス旨申入レタル處其ノ節何等確答ハ受ケサリシモ同部長ハ比島ノ關稅案ハ何等日本ヲ目指スモノニアラス比島ノ外國貿易ノ爲何レニモ好カレトノ趣旨ニテ研究セラレ居ルモノナルヘシト述ヘ居タリ

尙其ノ節在馬尼刺日本總領事ノ最近ノ演說中關稅問題ニ關

312 昭和9年10月2日

在米国藤井臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

ハル國務長官の「三角貿易」理論について

ワシントン 10月2日後發  
本 省 10月3日前着

第四二七號

(<sup>(1)</sup>往電第三〇八號ニ關シ(大統領ニ關稅權附與ノ件)  
一、大統領ニ於テ任意ニ諸國トノ條約ニ依リ互惠稅率ヲ決定シ得ルコトトナリタル以來國務省ニ對シ稅率協定ノ提議ヲ爲シ來ル國數多アリ殊ニ獨逸ハ當初ヨリ熱心ニ協定開始ノ意向ヲ申入レ居ルモ(往電第三〇一號參照)國務省ニ於テハ是等諸國ノ提議ヲ無方針ニ應諾スルコトヲ避ケ「ハル」長官ノ理想トスル triangular trade増進ノ見地ヨリ如何ナル品目ニ付協定ヲ爲スヘキヤヲ決定シ然ル後相手國ヲ選ヒ稅率協定ノ申入ヲ爲ス方針ヲ執リ居リ現ニ前記獨逸ヨリノ提

議ニ對シテハ米獨間ニ互惠稅率協定ヲ爲スハ目下ノ情勢ニ於テハ右方針ニ副フモノト思考セストノ理由ニテ之ヲ拒絕シタル事實アリ他方國務省ニ於テハ右方針ニ依リ稅率協定開始ノ爲ニ協定品目關係當業者「ヒヤリング」ノ開催ヲ目論見(往電第三〇一號參照)既ニ「ハイチ」(十月十五日)伯刺西爾(十月二十一日)白耳義(十月二十九日)「ホンジュラス」「ガテマラ」「サルバドル」「ニカラガ」及「コスタリカ」ノ中米五ヶ國(十月二十二日)西班牙(十一月二一日)ノ九ヶ國ニ關シテハ其ノ期日決定濟ニシテ(括弧内ハ「ヒヤリング」ノ期日)「ヒヤリング」ノ期日ハ左ノ通り決定セラレタルモ瑞典及和蘭トノ間ニモ近ク協定開始ノ運トナリ居ル處情報ニ依レハ國務省ハ先ツ中南米諸國トノ協定ヲ急キ居リ第二次的ニモ亦爾餘ノ羅典亞米利加諸國ヲ主トスルモノノ如ク歐洲諸大國並ニ東洋諸國トノ協定ニ付テハ目下ノ處何等考慮シ居ラサル模様ノ如シ

二、「ハル」長官ノ triangular tradeノ理論ノ要旨ハ A 國カ B 國ニ對スル輸出増進ヲ計ラントセハ C ヨリノ輸入超過タル B ヨリノ輸入貿易ヲ或程度迄増進セシメサルヘカラス從テ B 國產品ニ對シ特惠稅率ヲ賦與スルハ必要ニシテ世界

各國カ漸次右方針ノ下ニ關稅障壁ヲ低下乃至撤廢スルニ至ラハ世界貿易ハ自然增進スルコトナルヘシト言フニ在ルモ右ニ付テハ各方面ニ贊否ノ議論アリ反對論者ハ右ハ理論トシテハ妙ナルヘキモ實際問題トシテハ A 國ノ C ニ對スル輸出貿易ヲ增進セントセハ A-B、B-C、A-C 間ニ於テ夫々互惠條約ノ締結ヲ見ルニアラサレハ A 國ノ目的ハ充分ニ達セラレサルヘク然モ斯ル三個ノ條約ノ同時締結ノ如キハ極メテ困難ナル問題ナルノミナラス假令實現セラレタリトスルモ夫レ迄ニハ相當時日ヲ要スヘク其ノ間 A 國ハ B 國產品ノ流入ニ依ル國內產業ノ打擊ヲ忍ハサルヘカラサルハ甚タ危險ナリトノ見方ヲナシ居ル處最近「ピーク」(通商貿易ニ關スル大統領ノ「アドバイザー」)カ「ハル」ノ議論ハ弗價安定問題(爲替問題)及米國ノ對外投資額(戰債及賠償ヲ含ム)ノ問題ヲ全然考慮ニ入レ居ラサルモノナリト攻撃シ「ウォール」(アメリカン、フェデレイション、オブ、レイバー)副議長モ互惠條約ニ依ル外國品ノ流入ハ當該國內產業ノ衰微ヲ來シ之ニ從事スル労働者ノ失業ヲ招來シ現在ニ於テスラ八百萬ノ失業者ヲ有スル米國トシテハ由々シキ

業ニ於テ是等失業者ヲ收容シ得ヘシト言フ論者(「ウォーレス」農務長官ノ如キ)ハ過去十年間ニ於ケル統計ニ依レハ

米國產品ノ九十五%以上ハ米國國內ニ於テ消費セラルモ  
ノナルコトヲ忘却シタルモノナルノミナラスNRA「コ一

ド」ニ依リ各種產業ノ復興ヲ計ラントスル趣旨ニモ悖ルモ  
ノナリト非難シ居リ是等ノ反對論ハ少カラス政府當局ヲ動

カシタルモノノ如ク「ハル」ノ政策モ多少修正セラルヘシ  
ト見ラレ居リ前記獨逸トノ互惠條約ノ拒絕モ亦其ノ爲ナル  
ヘシト思考セラル

在米各領事、伯、亞、智、秘、玖馬、「カナダ」、墨ヘ暗送  
セリ

英ヨリ在歐谷大使(土ヲ除ク)へ轉報アリ度シ  
313 昭和9年10月9日 在マニラ木村(惇)総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

關稅引上げ法案に対する米国政府の否定的反応  
を述べたフィリピン総督公式発表とその政治的  
背景について

## (別電)

マニラ 10月9日後発

本省 10月9日後着

第一一五號

往電第一一四號ニ關シ

關稅引上案ノ目的ハ比島產業保護、米比通商互惠關係ノ促進、關稅率變更ニ關スル伸縮條項ノ設定ノ三點ナルカ米國政府ノ意嚮トシテ比島產業保護ノ爲適當ノ關稅引上ヲ行フコトニハ異存ナキモ米國品ヲ保護セんカ爲外國品ニ對シテ高率關稅ヲ賦課スルコトハ米國ノ對外通商政策ニ累ヲ及ぼス虞アリ又伸縮條項ノ設定カ果シテ憲法並ニ條約ニ抵觸スルコトナキヤノ點モ考慮セサルヘカラストノ回答ニ接セリ就テハ今期議會ノ問題トシテハ比島產業保護ノ爲ニスル關稅引上ニ止メ其ノ他ハ近ク來比スル米國議員比島視察團ノ意嚮ヲモ徵シタル上慎重考慮スルコト適切ナルヘシ云々米、「ダバオ」へ轉電セリ

別電 十月九日発在マニラ木村總領事より広田外務大臣宛第一一五號

右公式發表

マニラ 10月9日後発

本省 10月9日後着

第一一四號

往電第一一一號ニ關シ(比島關稅引上案ノ件)

閣議決定關稅引上案ハ總督ヨリ米國政府ノ意嚮問合セ中ノ處回訓アリタル趣ヲ以テ八日總督ヨリ大要別電第一一五號ノ通り公式發表アリタリ

右ニ關シ政界有力者ノ觀察ニ依レハ米國品保護ノ爲ノ關稅引上ハ議會方面ニ於ケル反對論者多ク一般民衆モ次第ニ之カ不利益ヲ自覺シツツアルニ加ヘ米國政府モ亦國際關係ヲ顧慮シテ贊成ヲ躊躇シ居ルコト判明セル今日假令法案カ議會ニ提案セラルモ否決ノ運命トナルコト見極メ付キタルヲ以テ總督トシテハ教書ノ手前頗ル面目ヲ損シ内心不快ヲ感シ居ルモ大勢ニ抗拒シ得ス遂ニ本邦品撲滅策ヲ斷念スルノ已ムナキニ至レルモノナリシ趣ナリ

米、「ダヴァオ」へ轉電セリ

## 日本品への課稅引上げ問題に対する米紙論調

について

ワシンントン 10月16日後発

本省 10月17日前着

第四五一號

<sup>(1)</sup> 我國輸出貿易ノ異常ナル進出振ニ關シテハ從來屢々當國諸新聞ニ報道セラレ居ル處是等諸新聞ノ報道振ヲ見ルニ何レモ我國輸出貿易ノ進出ハ世界各國ノ産業ヲ脅威スルモノト爲シ或者ハ苟クモ一國ノ産業カ進歩シタル技術ト組織トニ依リ精練セラレタル製品ヲ輸出しシ以テ他國ノ産業ヲ壓迫スルニ於テハ首肯出來得ルモ其ノ國ノ貨銀カ著シク低廉ニシテ而モ爲替安ニ乘シテ必シモ品質良好ナラサル製品ヲ以テ世界市場ヲ攬亂スルカ如キハ寧ロ人道問題ナリトサヘ極論スルモノアリテ一般ノ空氣ハ専ラ日貨排斥ニアリ

<sup>(2)</sup> 之カ爲當方ニ於テ本邦品ニ對スル特別課稅ノ賦課又ハ關稅引上等ノ運動アルニ際シ國務省又ハNRA方面ニ對シ之カ阻止ニ努ムルニ當リテモ鮮カラサル困難ヲ爲シ來リタル次第ノ處極ク最近ニ至リ日米貿易ハ米國カ寧ロ受取勘定ニナリ居ル事實ヲ指摘シ居ル記事<sup>(説)</sup>弗々現ハレ就中十五日ノ當地

314 昭和9年10月16日

在米國藤井臨時代理大臣より  
広田外務大臣宛(電報)

## 方諸新聞ハ一齊ニJapan's trade expansionト題スル雑誌

トについて

ワシントン 10月19日後発

本省 10月20日前着

日本ノ輸出貿易ノ著シキ進出ニ幻惑セラレ其ノ半面輸入貿易モ之ニ伴ヒ極メテ旺盛ニシテ日本ハ依然輸入超過國ナル

事實ヲ看過シ居レリト述ヘ殊ニ曰米貿易ノ状態ヲ見ルニ一

九三二年以來一九三四年上半期ニ至ル迄米國ノ對日輸出貿易ハ漸次增加シツツアルニ反シ日本ヨリノ輸入ハ之ニ比シ

寧口減退ノ傾向ニアリテ今日ニ於テハ日本ハ米國ノヨリ好キ顧客トナリタリト指摘シ且世人ハ日本最近ノ目覺マシキ

輸出貿易ノ發展ヲ惡シサマニ批評シ居ルモ日本ハ一方ニ於テ世界產品ノ好キ市場ナルコトヲ忘ルヘカラストノ趣旨ヲ

以テ論シ居レリ

右ハ當方面最近ニ於ケル新シキ傾向ノ兆ト思考セラル右雜誌郵送ス

在米各領事、紐育商務官ニ暗送セリ

315 昭和9年10月19日 在米國藤井臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 互惠通商政策に関する國務長官ステートメン

相手國ノ心證ヲ害スルコト甚大ナルモノアルノミナラス若シ協定不成立ニ終ル際ハ以前ニモ增シテ兩國ノ貿易關係ヲ

阻害スルモノニテ決シテ賢明ナル方法ニ非ストテ協定ニ際スル稅率ノ見越引上ニ對シ警告ヲ發シ居ル處右「ステートメント」中最後ノ點ハ米國カ之ヨリ互惠通商協定ヲ締結セ

ントスル諸國ニ對シスル手段ヲ構セサル様豫メ警告シタルモノナルヘキモ最近獨逸カ米國側ニ互惠協定締結ヲ申入レ

之カ拒否セラルルヤ再ヒ手ヲ變ヘテ十二月附ヲ以テ米國政府ニ對シ千九百二十五年締結ノ米獨通商條約第七條最惠國條款ニ關スル規定ノ廢棄方ヲ申入レ兩國間ノ通商關係ヲ調整スヘキ何等適當ノ方策ヲ講スル爲協議シ度シトノ提議ヲ爲ス一方米國ヨリノ輸入品ニ對スル輸入制限ノ方法ヲ考究中ナリトノ報道アリ佛蘭西モ亦米國品ニ對スル從來ノ「コントンジヤン」ヲ廢シテ稅率引上ヲ目論見居レリトノ情報アルニ依リ差當リ右兩國ヲ目標トセルモノト思考セラル委細郵報

在米各領事、玖馬ヘ暗送セリ

英ヨリ佛、獨ヘ轉報アリタシ  
(回)從テ今日米國ノ執ルヘキ方策ハ「輸出入ノ選擇」(Select

往電第四二七號ニ關シ(大統領ニ關稅權附與ノ件)

「ハル」國務長官ハ十七日互惠通商政策ニ關シ「ステートメント」ヲ發シタルカ右「ステートメント」ニ於テ某長官ハ米國政府カ互惠通商法ニ依リ與ヘラレタル權限ニ基キ最初ニ締結シタル玖馬トノ條約カ其ノ效力發生後僅ニ一箇月ニ及ヒタル今日兩國間ノ貿易ハ著シキ伸張ヲ見タル事實ヲ指摘シ且冒頭往電所報ノ諸國トノ間ニハ協定締結ノ準備着々進捗シ居レリト述ヘ尙米國政府ノ互惠通商政策ハ決シテ締結國間ノミノ貿易増進ヲ目的トスルモノニ非スシテ世界貿易ノ進展ヲ最終ノ目的トルモノナル次第ヲ闡明シ最後ニ從來ノ例ヲ見ルニ一國カ他國ト互惠稅率協定ヲ締結セントスルヤ先ツ其ノ稅率法ヲ修正シテ相手國ヨリ輸入セラルル想定協定品目ニ對シ殊更ニ稅率ヲ引上又ハ或種ノ輸入制限ヲ設ケテ愈々協定ニ際シテ是等稅率又ハ輸入制限ヲ緩和シテ協定ヲ自國ニ有利ニ導カントスルモノアルモ斯ノ如キハ

316 昭和9年12月(2)日 在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 國務長官の互惠通商理論に対する輸出入銀行 總裁の反対論について

ワシントン 本省 12月2日後着 発  
第五三三號

引用番號脱?

<sup>(1)</sup>國務省ニ於テハ其ノ後冒頭往電所載ノ諸國以外瑞西、加奈陀、亞爾然丁トノ協定締結ノ段取モ進捗シ着々所期ノ計畫ヲ進メ居ル處「ハル」長官ノ互惠通商理論ニ對シテハ依然各方面ニ反對論有リ就中輸出入銀行總裁「ピーク」カ最近

米國銀行協會ニ於テ「ハル」ノ政策ヲ論難シテ以來又々諸方面ニ賛否ノ論争ヲ巻キ起シタルカ是等反對論ノ要旨ハイ「ハル」ノ互惠通商政策ハ無條件最惠國條款主義ヲ基調スルモ米國ガ過去十二年間右主義ヲ奉シ來レル經驗ニ徵スルハ自由貿易主義ハ結局他國ヲ利シタルニ止マリ少ク共

米國ニ關スル限り寧口失ヘル處多ク

七 諸外国との通商問題

英ヨリ佛、獨ヘ轉電セリ

在米各領事、玖馬ヘ暗送セリ

英ヨリ佛、獨ヘ轉電アリタシ

(b) 自由貿易ハ國內産業ノ或モノヲ衰微セシメ其ノ結果ハ労働者ノ失業ヲ招來ス

(c) 貿易ハ國內産業ノ保護乃至發達ヲ度外視シテ爲サルルヘカラス從テ輸出價格(Export Price)ノ設定ノ如キ方途ヲ講スルコト緊要ナリ

ト云フニ在リ之ニ對シ「ハル」國務長官ハ反對論者ノ言フ處ハ近代的 Industrialism 以前ノ Mercantilism 逆戻リスルモノナリト應酬シ互惠通商協定ハ無條件最惠國條款ヲ執ルニ非サレハ世界<sup>(2)</sup>貿易ノ增進ヲ計ルコト不可能ニシテ又世界貿易一齊ニ増進スルニ非サレハ自國產品ノ市場ニ購買力ヲ増進スルコトヲ得ストノ信念ヲ強調シ居レルカ國務省當局カ無條件最惠國條款主義ノ下ニ於テ今日直ニ諸國トノ間ニ互惠通商協定ヲ締結スルコトハ諸種ノ困難ヲ伴ヒ到底所期ノ目的ヲ達シ得サルコトヲ感得シタルコトハ事實ナル模様ニテ曩ニ締結セラレタル米玖互惠協定ヲ有條件ト爲シタルモ亦之力爲ト看ラレ居リ又瑞典ノ燐寸及白耳義ノ硝子類ニ對シ夫々稅率引

リタル際當業者カ之等一品カ日本品ニ依リ均霑セラレムコトヲ恐レタルニ對シ政府當局ハ日米間ハ友情感ナルカ故ニ均霑ノ懸念ナシトノ趣旨ノ答辯ヲ與ヘタル事實アリ旁米國カ今日直ニ無條件主義ヲ一貫セムトスルモノニ非サルコトハ之ヲ推知スルニ難カラス去リナカラ國務省當局ハ「ハル」長官ノ理論ト現實ニ起り來ル諸種ノ困難ヲ調節セムカ爲ニハ相當苦慮シ居ルモノノ如ク無條件最惠國條款主義ヲ奉シナカラ他方ニ於テ事實上相手方ヲシテ其ノ機能ヲ停止セシムルノ方法トシテハ稅率表中ノ品目ノ組替ヲ爲ス以外ニ方法無シトシ現ニ加奈陀ヨリノ「ウキスキ」ニ對スル低稅率ニ英國產「ウキスキ」ヲ均霑セシメサル方法トシテ distilled spirit ノ部門中ニ「アメリカン」中部麥「ウキスキ」ノ項ヲ設クヘシトノ議アリ而シテ品目組替ノ權限ハ大統領ニアリ曰下其ノ準備ヲ進メ居ル模様ナリ斯クノ如ク米國ノ貿易増進策ニ關シテハ其ノ主義ノ問題ニ付異論アル次第ナルモ大統領ハ「ハル」長官ノ互惠主義ト雖自由貿易増進ノ方策ヲ根幹トシ事態ノ如何ニ依リテハ適宜「ピーク」一派ノ所論ニ依リ之ヲ修正セントスルノ意囑ナルカ如シ

然ルニ協定解決ノ相手方ノ順位ニ關シテハ中南米諸國ヲ第一トシ歐洲諸國ヲ第一トシ亞細亞諸國ヲ第三トスルコトニ大體方針一定シ居ル模様ニテ對亞細亞貿易ニ關シテハ目下ノ處何等具體的成案決定シ居ラサル趣ナルモ諸種ノ情報ヲ綜合スルニ國務省ニ於テハ亞細亞大陸ヲ三部ニ區分シ西部、南部及西南部(英領印度及馬來ヲ含ム)東部(日本及支那)トシ右ノ内西部並ニ南部及西南部ハ政治的經濟的ニ歐洲諸國

トノ關係密接ナルヲ以テ此ノ方面ヘノ進出ハ暫ク之ヲ差控フルモ日本及支那ハ今後共亞細亞ニ於ケル最上ノ市場ト認メ右二國トノ貿易増進策ニ付折角研究中ナルカ如シ在米各領事、伯、亞、智、秘、哥、玖、加、墨ヘ暗送シ英ヘ轉電セリ

英ヨリ(土ヲ除ク)在歐各大公使ヘ轉報アリ度シ~~~~~